

X RRSチーム

ラピッドレスポンスシステムとは、患者さんの状態が重症化する前にその徴候を発見し、介入するシステムであり、24年度にワーキンググループとして発足した。チームは医療安全管理部門の下部組織であり、医師及びセーフティマネージャー、集中ケア認定看護師、救急看護認定看護師で構成されている。

主な活動は毎週木曜日15時から集中ケア認定看護師もしくは救急看護認定看護師が全病棟をラウンドすることで、病棟看護師とともに入院中の重症患者さんの情報共有を行い、より良いケアが提供できるように看護介入の示唆や治療環境の調整などを行っている。また、RRS起動基準を周知し、病棟看護師が異常に気付いた際に主科での対応が困難な場合等に対応することで、入院中の患者さんの「予期しない状態変化による院内心停止」を回避することを目的に活動している。

今年度の統計では、RRSの介入件数は317件であった。最も多かった相談内容としては「患者さんになにか気がかりなことがある」といった全般事項であったが、引き続き呼吸器系と循環系の相談件数が20%前後であった。これは、他大学と同様、敗血症性ショックなどの重症患者さんが多く入院していることを示している。今後も活動を継続することで、患者さんの状態変化にタイムリーに対応できるシステムを構築できるよう検討していく。

X-1 ラピッドレスポンスシステム起動基準

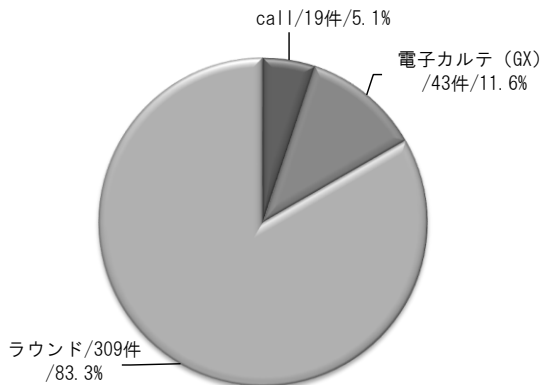
項目	内容	指標	コード
呼吸器系	新たな自発呼吸数の低下	8回/分以下または28回/分以上	Ra
	新たな酸素飽和度の低下	SpO ₂ 90%未満	Rb
循環系	新たな収縮期血圧の変化	90mmHg未満	Ca
	新たな心拍数の変化	40回/分以下または130回/分	Cb
尿路系	新たな尿量の低下	50ml / 4H以下	Ua
神経系	新たな意識レベルの変化	GCS・JCSの明らかな低下	Na
		麻痺の出現	Nb
		痙攣の出現	Nc
全般事項	患者に何か気がかりなことがある	例：チアノーゼ、ADLの低下、予想範囲外の吐・下血など	Ga

※14歳以下は対象外

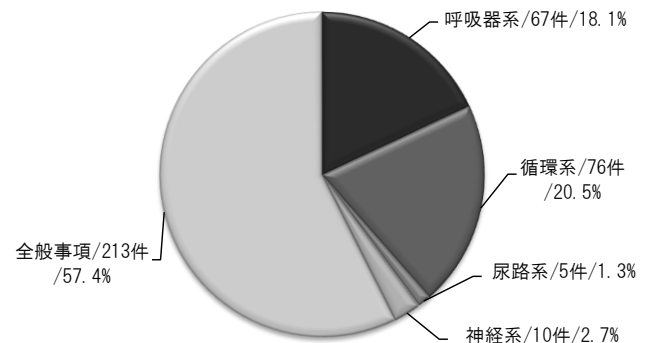
※コール対応は平日8：30～17：00

※ケアに困っているなども気軽にご相談ください

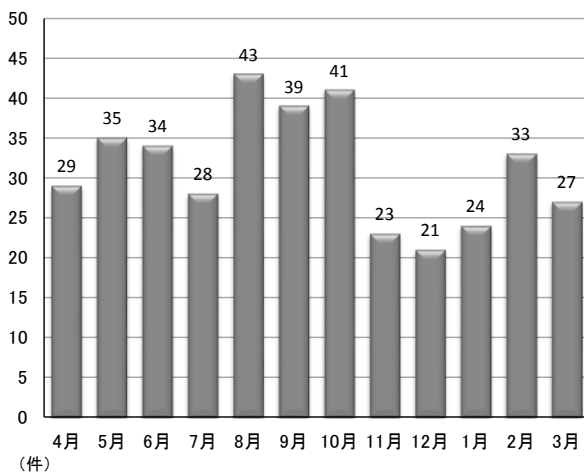
X-2 29年度介入に至った経路の構成比率(合計371件)



X-3 29年度介入に至ったコードの構成比率(合計371件)



X-4 29年度月別介入件数



X-5 29年度診療科別介入状況の構成比率(合計372件)

